

神戸孝 FPAソシエイツ&コンサルティング株式会社代表取締役 氏に聞く

## 長期化するコロナ危機の中、いま求められる資産運用アドバイスとは？



かんべ・たかし ●早稲田大学法学部卒業。三菱銀行、日興証券を経て、FPアソシエイツ&コンサルティング株式会社を設立。わが国を代表する独立系FPの一人として、自ら個人・法人等のコンサルティング、各種講演会・研修会講師などを行う傍ら、全国の独立系FPのための支援ビジネスも展開している。金融庁・金融経済教育研究会メンバー、同・金融審議会専門委員などを歴任。

2月から3月にかけての大暴落のあと、ある程度は持ち直してきたとはいえ、ボラティリティが大きい、不透明な状況が続くマーケット。その中でFPには、お客様に対し、どのような運用アドバイスが求められるのか。資産運用に強いFPの第一人者であるFPアソシエイツ&コンサルティング代表取締役の神戸孝氏にお話を伺った。

——今回のコロナショックでは、最初、2月19日の北イタリアでの感染者急増をきっかけに、世界的株価暴落が起きました。そこから3月下旬にかけての暴落の過程をどのようにご覧になっていましたか。

神戸 一言で言えば驚きでした。今回の株価暴落は、これまでの暴落とは全く性質が違うもの

です。従来の株価暴落というのは、リーマンショックなどもそうだったように、マーケットの中に何らかの原因があり、それによって引き起こされたものでした。そうした暴落については、それなりに多くの人が経験してきたわけですが、今回のようなパンデミックによる、これほどの株価下落というのは誰も経験がありませんでした。

コロナ問題の広がりや終息について先が読めないということもあり、その驚きが恐怖に変わりながら世界中に広がっていったのが、2月から3月にかけての暴落だったと思います。

——ただ、大暴落のあと、一進一退はあるとはいえ、株価は持ち直してきました。これはやはり、金融緩和が支えているということですかね。

神戸 それに尽きるでしょう。金融緩和でジャ